

編集後記

本特集は、人と環境（建築物を含む）との関係を扱う建築学の諸分野において、現象の捉え方とその手法の多様性を示そうとしたものである。特集を企画した当初は、センシングの手法について、従来法と新たな手法の幅広さを提示する特集になることをイメージしていたが、論者が集まってみると、単なる手法の話に留まらず、センシングを通して、建築学の諸分野が、何を捉え、それをどう解釈して、どのように生活者の実体験に還元しようとしているのか、建築学諸分野が捉えようとする本質に迫るものになったと感じられる。寄稿者らによって深みが増したことに感謝を申し上げたい。

建築学でも、他の領域の研究成果を取り入れ、UAVや機械学習などを用いた新たなセンシングの手法やそれらをリアルタイムに観測し環境にフィードバックする方法が実装されつつあることは、兼松氏、高瀬氏、高松氏の論考などにも示されており、領域横断、領域連携がますます重要になってきていることが再認識できる。一方で、垣野氏が示すような従来型のアナログな手法も、ものごとを観察し論点を発見していく過程では不可欠であり、そのことは、デジタルな手法も取り入れている高松氏も指摘するところであった。また、建築とはフィジカルな身体をもつ人間に寄り添う空間であり、だからこそ、センシングの結果も単なるデータではなく、人の振る舞いにどう接続できるのかが重要であることは、高瀬氏の論考が示すところである。

本特集で紹介した分野だけでなく、建築学では他にも様々な「人と環境のセンシング」がある。近年安価なセンサーを多く設置するような新たなセンシングも増えてきている構造分野、光の状態の計測と人の複雑な知覚を結びつける取り組みをしている光環境分野、火災の状況のセンシングを建築側の対応や人の避難行動に接続させる防災分野、3次元点群データを活用したアーカイビングも始まりつつある歴史分野など、他にも紹介したい多くの分野があった。そうした分野の幅広さについても、また別の機会に紹介できればと考えている。

最後に、「科学フォーラム」編集室の皆さまには、執筆に当たって大変ご迷惑をおかけしたにもかかわらず、粘り強く寄り添ってくださり、改めてお礼を申し上げます。

〔伊藤 香織：創域理工学部〕

次号予告

特集：令和版 化学の十字路口としての錯体化学

- 錯体化学の原点と広がり
- 動的な金-炭素結合が織りなす分野融合化学
～大環状金錯体からナノフープ合成への展開～
- 窒素還元錯体触媒の研究史
～生物無機化学及び錯体化学的アプローチ～
- 「分子を超える」化学の現在地
～超分子金属錯体が示す革新的な機能性～
- 界面歪みによるヘテロ構造MOF薄膜のスピントランスポール制御
- 3D電子回折の金属錯体への適用

編集委員会 編集委員

佐々木健夫	理学部第二部 化学科
松田 学則	理学部第一部 応用化学科
小谷 佳子	理学部第二部 数学科
西尾太郎	理学部第二部 物理学科
橋詰 峰雄	工学部 工業化学科
藤沢 匡哉	工学部 情報工学科
山本 隆彦	創域理工学部 電気電子情報工学科
早瀬 仁則	創域理工学部 機械航空宇宙工学科
塚本 良道	創域理工学部 社会基盤工学科
梅澤 雅和	先進工学部 機能デザイン工学科
梅澤 正史	経営学部 ビジネスエコノミクス学科
佐藤 憲一	教養教育研究院 野田キャンパス教養部



葛飾キャンパス 図書館

SCIENCE FORUM 科学フォーラム

通巻 447 号
(創刊 1984 年 7 月)

2025 年 6 月発行 / 第 42 巻 3 号

発行人 浜本 隆之 (学校法人 東京理科大学理事長)

編集人 佐々木 健夫 (編集委員会 委員長)

〒162-8601 東京都新宿区神楽坂 1-3

TEL: 03-3260-4271 (代)

<https://www.tus.ac.jp/about/information/publication/forum>



お問い合わせは、本学広報課をお願いします。

TEL: 03-5228-8107, FAX: 03-3260-5823

理大 科学フォーラム編集室 (担当: 亀山 亜土, 白井 直美)

e-mail: henshu@admin.tus.ac.jp

落丁・乱丁本はお取替えいたします。

印刷・製本 精興社

禁無断転載